

中国空軍アクロバットチーム（八一飛行表演隊）の演技から見る中国空軍パイロットの技量

漢和防務評論 20180306(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

UAE ドバイ航空ショーで、中国空軍アクロバットチーム”八一飛行表演隊”の飛行演技を見た漢和の編集者は、数年前に比べて飛行技術が格段に向上しており洗練されてきた、と述べています。彼らが中国空軍パイロット全体の水準を完全に代表するとは見ていませんが、第3世代戦闘機の導入に伴って飛行大綱（訓練要求基準）もレベルアップしているはずなので、中国パイロットに対する従来の評価は修正する必要があるかもしれない、と述べています。前世紀には中国パイロットの訓練飛行時間が月間5-6時間程度だったので技量も低かろう、と判断していたのですが、現在は飛行時間が増えているはずです。

一國空軍のアクロバットチームの演技は、その国の空軍全体の訓練レベルをどの程度代表しているのだろうか。数年前、ランカウエイで公開された中国空軍アクロバットチーム”八一飛行表演隊”（J-10Aを使用）の演技と比べると、今回は、レベルが相当向上している。演技が多様化しただけでなく、編隊が密集したまま離陸している。演技の過程でも航空機間の隊形は整っており、単機の演技も複雑さを増した。7G以上はかかっているはずだ。中国空軍パイロットの全体の素質、訓練水準が向上し、しかも第3世代戦闘機におおむね適応し始めたようだ。特にJ-10戦闘機の各種飛行動作は掌握できたものと思う。従来、中国空軍パイロットの技量を台湾空軍パイロット及び日本空軍パイロットと比較するとき、西側は、台湾及び日本が上であると見ていた。現在、この見方は修正する必要があるかも知れない。

八一飛行表演隊の演技水準が中国空軍全体の水準を完全には代表していないとしても、第3世代戦闘機が続々と中国空軍に装備されるにしたがって、飛行大綱に基づいて、パイロットは審査を受けているはずだ。演技の要素を除き、第3世代戦闘機パイロットに対する要求の度合いは、八一飛行表演隊に比べ、低いはずがない。今回の飛行演技から見ると、J-10は確かに機動性に優れた戦闘機である。上昇速度が速く、低速での迎え角は30度に近い。エンジンの推力も高く、旋回半径も小さい。見ただけの感じでは、単機のJ-10Aの演技は、その後離陸したF-16Cに比べ勝るとも劣らなかった。

最近の台湾空軍のミラージュ2000-5の事故について、報道から見ると、大尉のパイロットのここ数年間のミラージュの年間飛行時間は60時間以下であった。カナダ空軍CF-18パイロットの平均年間飛行時間は150時間である。米空軍の一部のパイロットは180乃至200時間を超えている可能性がある。

ドバイ航空ショーで発見したことは、八一飛行表演隊のパイロットは自由に展覧会を参観し、物品を購入していた。モスクワ及びランカウエイで演技した際には、中国パイロットは展覧会に姿を現さなかった。

中国空軍パイロットの給与は、近年、毎年アップしている。数年前の第3世代戦闘機パイロットの月給は、すでに10000人民元を超えており、(1USドルは7人民元として計算) 飛行手当もアップしていた。

以上